

Diverse Link Tokyo Edu

～高度で創造的な探究学習を社会・世界と連携して提供する都独自の「学びのプラットフォーム」の構築～

WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業 採択事業

令和元年10月23日（金）

東京都教育委員会

Diverse Link Tokyo Eduの特徴

- 管理機関（東京都教育委員会）が事業全体の中核機能※を担い、拠点校（南多摩中等教育学校）及び共同実施校（白鷗高等学校・附属中学校）等の活動をサポート

※管理機関の役割：様々な外部リソースと連携した多様な学習機会の提供、各種委員会の運営、高校生国際会議の開催、学校間の連携支援、教材開発等

- 外部リソースと学校教育ノウハウを融合することで、高度かつ新たな学びを創出

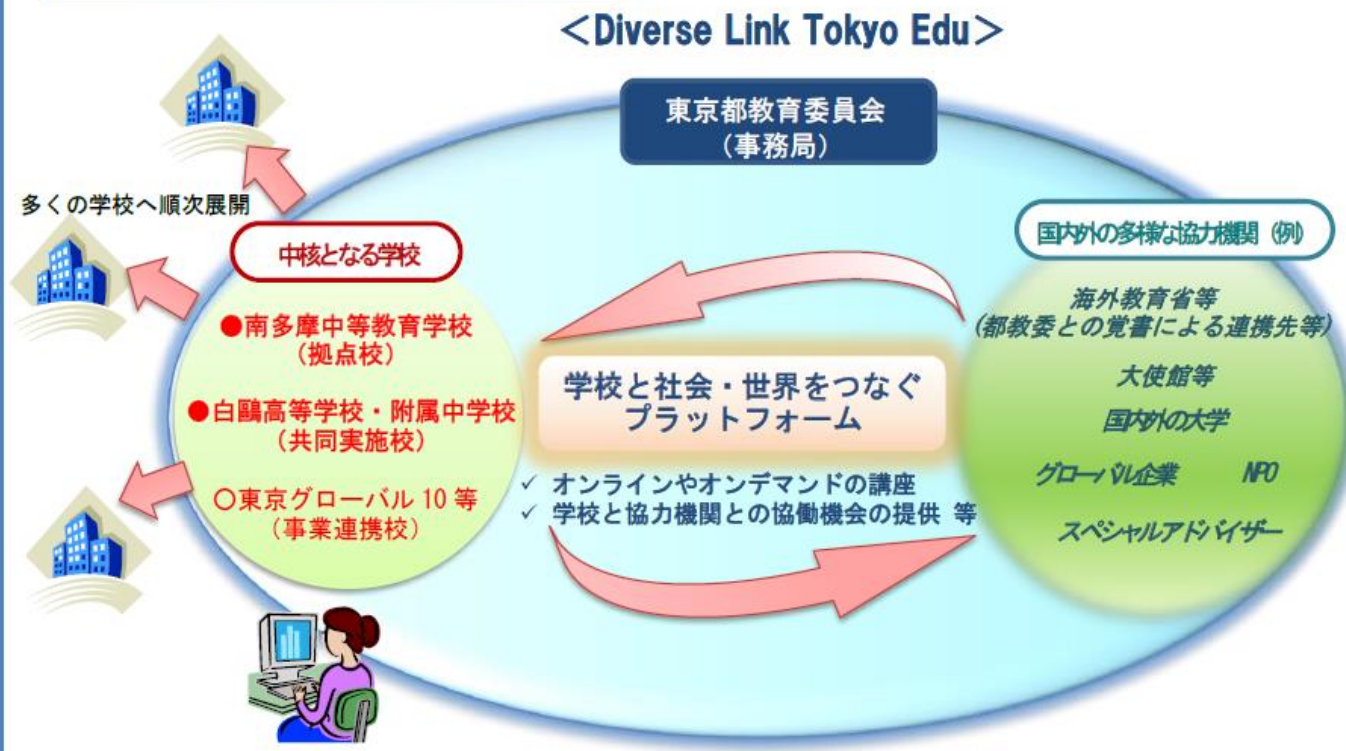
- 探究学習、文理融合（STEAM等）、英語（CLILを含む）、ICTの活用等を重視

取組の全体概要 ~ビジョンと方向性~

I 新たな時代に対応できるグローバル人材を育成するための現状と課題

- 東京都英語村 TOKYO GLOBAL GATEWAY や TEEP (東京イングリッシュ・エンパワメント・プロジェクト) などで実践的な英語の学習機会を提供しているが、発展的な学びを通して、より高い英語力を伸長する必要
- 国際感覚や世界的視野をもって行動できる力を育成することが必要
- Society5.0 を見据え、深い思考と協働力、創造性を培う高度な学びを提供することが必要
- 東京に集積する多様な資源を活用し、体験的な探究学習を開発することが必要

都独自の「学びのプラットフォーム」の構築



取組の方向性

1) 先進的な教育手法の活用

- CLIL (内容言語統合型学習)
- STE(A)M**教育
※Science, Technology, Engineering, Art, and Mathematics



2) 実社会や世界の知見に触れる機会

- 都独自の文理融合の「探究学習」カリキュラムを、協力機関と共同開発
- 研究者や企業による論文やプレゼン指導
- 企業や研究室訪問

3) 主体的・対話的な学び方

- 海外の姉妹校や国内の地方の学校との協働プロジェクト
- 企業等から提示された課題等に高校生が提案



4) 高校生国際会議



5) 『Tokyo Leading Academy』

取組の全体概要 ～学校での取組と都教委による取組との相互補完～

【拠点校・共同実施校での取組】

個に応じた学び

教育課程の再編等

文理融合、探究、グローバルの視点
・学校設定教科/科目
・特例校申請 ・CLILの導入

課題研究（探究学習）

企業や研究室への訪問、
フィールドワーク、外部人材
による出前授業等

活用

【14校を対象として、都教委が主催する取組】

学校の垣根を超えた学び 合いの機会

Tokyo Leading Academy

・対象校の希望者を集めて行う特別講座

（国内外の協力機関からレクチャラーを招聘し、
英語でのレクチャー、ワークショップ、生徒の
ディスカッションや発表等を実施）

高校生国際会議

・「東京体験スクール」による各国から都立校
への短期留学生と受入校のバディ及びその他希
望者による会議。全て英語で実施

【具体的な手法】

課題設定

仮説の設定

情報の収集

整理・分析

まとめ・表現

学校での取組例 ～南多摩中等教育学校～

- 6年間の中で、キャリア教育につながる探究学習を実施

学年	活動	内容
1年	地域調査（グループ）	多摩地域に関する調査
2年	モノ語り（グループ）	モノに着目して調査・研究
3年	科学的検証（グループ）	科学的検証実験・調査
4、5年	論文作成（個人） （ライフワークプロジェクト）	自身のキャリアとの関連

フィールドワーク、T Aを含むゼミ活動、
様々な外部への発表の場の活用等により
充実化



学校での取組例 ～南多摩中等教育学校～

【教育課程の再編】文理融合の新教科の設定

◆データ分析（3年）

技術・家庭科を削除、データの分析に関する内容を先取りして学ぶ

◆地球探究（4年）

「地理」「地学」の内容を中心に「地球」について学ぶ

◆MIE (Mathematics in English)（5年）

SAT（米国大学進学適性試験）の数学テキストを使い学ぶ

◆Pensée（6年）

現代社会と連携して課題解決学習を中心に行う

都教委による取組例 1 ～大学・企業等によるワークショップ～

特別セミナー!

Diverse Link Tokyo Edu

学校と社会・世界をつなぐ東京都独自の学びのプラットフォーム

国際金融の最前線を走るトップリーダーに学ぶ、
多角的なものの見方、様々な分野・事象の関連性

地球の裏側の出来事が、なぜ私たちに関係があるのか

令和元年7月7日(日) 10:00-12:00

講師 パークレイズ証券・パークレイズ銀行東京支店会長
児玉 哲哉氏

定員 50名程度(先着順) 定員になり次第、締め切ります。

会場 クロスコーp新宿SOUTH2階 セミナールームB
【最寄駅】新宿駅徒歩4分、東京メトロ「新宿三丁目」駅徒歩1分
【住所】新宿区新宿4-3-17 FORECAST 新宿 SOUTH



<プロフィール>
日本興業銀行に約20年間勤務後、
2000年5月よりドイツ証券にてマネージ
ングディレクター
2012年7月に副会長としてパークレイズ
証券に入社
2016年3月に同社会員に就任
2017年11月より現職

金融業界で30年間にわたるキャリアを構
築する中、国内外の公的部門から金融部門、
民間部門における幅広い人脈を築く。

東京大学法学部卒業
ハーバード・ロースクールより修士号取得



> 第1部：レクチャー

世の中の垣根の流動化/今何が起きているのか/
見えないところが面白い/海外から見た日本/
環境配慮型社会を考える 等

> 第2部：Q&Aセッション

レクチャーの内容だけでなく、経済やグローバル・
キャリアについて等、広く質問することができます

> 総括：他の参加者の学びを共有

～本セミナーの特徴～

- > 講師に、直接質問できる時間が充実しています
- > 探究学習(課題研究)を行う上でもヒントになるリアルな情報や多様な観点を学べます
- > 参加者の意見をシェアすることで、様々な考え方に触れられます

東京都教育委員会

当日は、メディアの取材が入る可能性があります。

- > 興味や関心の広がり
- > 実社会とのつながり
- > 世界的視野、分野横断的な課題設定へのきっかけ
- > 他校生徒との学び合い

都教委による取組例 2 ～大学・企業等によるワークショップ～

- 行政機関同士の連携を契機
- 環境等、グローバルな課題をテーマ
- 最先端の研究等に触れる、高度な学びの機会
- 英語をツールとしたインタラクティブな学びの実践
- 課題研究の発表の場

Diverse Link Tokyo Edu
学校と社会・世界をつなぐ。東京理科大の学びのプラットフォーム

Tokyo Leading Academy トライアル

世界最先端&トップレベルの学習機会を提供する特別講座

【テーマ】
How to realize sustainable energy systems

令和元年 11月17日(日) 13:00-16:00

講師 東京大学先端科学技術研究センター 教授
杉山 正和 氏
オーストラリア クイーンズランド工科大学 教授
Ian Mackinnon 氏

定員 30名程度 申込締切: 令和元年9月27日(金)、申込者多数の場合は抽選

会場 東京大学 駒場 II リサーチキャンパス
先端科学技術研究センター ENEOS ホール (3号館南棟 1F)
【最寄駅】東京メトロ・小田急線「代々木上原」駅徒歩 12分、
小田急線「東北沢」駅徒歩 8分、京王井の頭線「池ノ上」
「駒場東大前」駅徒歩 10分
【住 所】目黒区駒場 4-6-1



【杉山 正和 教授プロフィール】
1995年 東京大学工学部化学システム工学科 卒業
2000年 同工学系研究科化学システム工学専攻博士課程修了。博士(工学)
2017年より現職
主な研究内容は半導体量子構造の結晶成長と高効率太陽電池への応用、高効率太陽電池をベースにした太陽光エネルギーの化学的貯蔵システム。
化学工学会奨励賞、日本燃焼学会論文賞、東京大学大学院工学系研究科 Best teaching award、同研究科長表彰(研究部門)を受賞。

【Ian Mackinnon 教授プロフィール】
クイーンズランド工科大学末末環境研究センター (IFE) の創設者かつ前センター長。クイーンズランド州政府の水素戦略顧問。元オーストラリア・リサーチ協議会(ARC)の上級委員。
環境工学以外にも物理、地球科学、数学、コンピューターサイエンス等、幅広い分野に関与。産学連携で成果重視のリサーチ手法を得意とする。

➤ **第1部: レクチャー/最新の実験機材による実演/Q & Aセッション**
"Hydrogen as an enabler of disruptive installation of renewable energy" 他
・再生可能エネルギーに関する、最新の日本の取組と世界の動向、国際連携の重要性を日豪2名の教授からお話いただけます。
・実験の実演により、太陽光と水素とがどのように発電に関係するのかが分かります。

➤ **第2部: 生徒による研究成果プレゼン※/ Q & Aセッション/教授陣による講評**
※今回は代表生徒によるプレゼンのみとなります

➤ **総括: 他の参加者の学びを共有**

～本セミナーの特徴～

- 原則として、**全て英語**で実施します!
- **探究学習(課題研究)**を行う上でのヒントを得られます!
- 他の生徒の**様々な考え**方に触れられます!
- 講師の他、**スペシャルゲスト**も予定しています!
参加費は無料です。当日は、メディアの取材が入る可能性があります。

【会場案内図】


 **東京都教育委員会**  **東京先端研**
Research Center for Advanced Science and Technology
The University of Tokyo

都教委による取組例 3 ～高校生国際会議～

- オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、台湾、タイ、東京の高校生が一堂に集う
- オリンピック・パラリンピックに向け、多文化共生へ、どのようなアクションが可能か、分科会でディスカッション
- 海外大学から招聘したレクチャーがダイバーシティに関する基調講演

暫定版

Diverse Link Tokyo Edu
学校と社会・世界をつなぐ東京都独自の学びのプラットフォーム

第1回 東京高校生国際会議

Tokyo Highschool Student International Conference (THSIC)

【テーマ】日本における多文化共生社会へのアクション
～東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会に向けて～

令和元年 12月15日(日) 9:30-12:00

参加者 生徒 150名程度
オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、台湾、タイ、東京等の高校生が参加！
※海外の生徒は、東京体験スクールにより来日した留学生です
※応募者多数の場合は、抽選になります

会場 23区内の会場を予定
※具体的な場所は、参加者に別途連絡します。



【Neil Boland 教授プロフィール】

国立オークランド工科大学教授。
シユクタイナー教育に関する国内、オーストラリア、北欧を含むアドバイザー委員会等に所属。
主な担当分野は、未来の教育、シユクタイナー教育、芸術を通じた教育などがある。現在取り組んでいる研究は、教員と子供たちの創造力についての相関関係、ニュージーランドにおける幼少期の音楽教育、教育における精神性など。
Faculty of Society and Culture, Excellence in Teaching Award 等を受賞。

➤ **第1部：基調講演**
“Experiences of superdiversity in Auckland, New Zealand”
オークランド工科大学 (AUT) 教授 Dr. Neil Boland

➤ **第2部：分科会**
【第1分科会】“こんなサービスがあったらいい！” (ユニバーサルデザイン)
【第2分科会】“災害時に助け合うための工夫” (防災)
【第3分科会】“一緒にきれいな街を作ろう！” (ごみ・環境)
【第4分科会】“外国人も日本人もみんなが楽しく過ごせる学校とは？” (教育)

※分科会では、事前に各自で考えたアイデアや意見をもとに、グループに分かれてディスカッションし、発表を行います。
※分科会の進行は生徒が行います。
※分科会の進行やディスカッションにおいては、東京体験スクールの引率教員や、ダイバーシティ・リンクの協力者がサポートします。
※分科会の詳細は、参加者に別途連絡します。

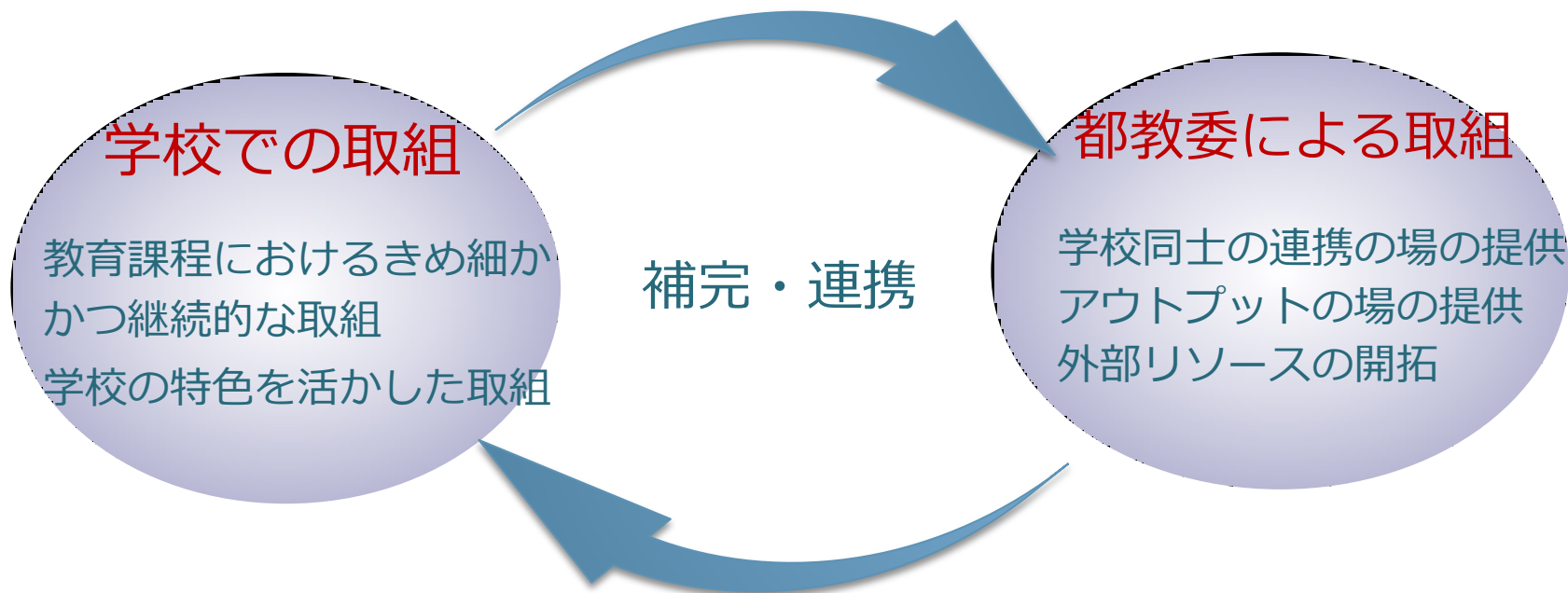
➤ **第3部：各分科会の総括および共同声明**

～本会議の特徴～

- 原則として、**全て英語**で実施します！
- **海外大学の教授**によるレクチャーを体験できます！
- **様々な国の生徒**の考え方に触れ、ディスカッションできます！
- **自分ならどうするか。主体的に考える、行動を起こすきっかけ**を掴めます！

参加費は無料です。当日はメディアの取材が入る可能性があります。

 **東京都教育委員会**



国際感覚や世界的視野、高い英語力により、事象を多面的・多角的に捉え、主体的に課題を見出し分析する深い思考力と、多様な価値観を尊重しながら協働する力、斬新かつ柔軟な創造力によって、解決策を導き行動していくことができる人材を育成